2024.03.07

ミハル通信が22.2ch音声伝送に成功、さっぽろ雪まつり会場から大阪へ　臨場感高い音場再現

実証実験の全体システム

ミハル通信は、情報通信研究機構（NICT）が主催した「2024さっぽろ雪まつり」（2月4～11日）で、開催期間内の4、5日に行われた伝送実証実験に参加した。

同実証実験で、さっぽろ雪まつり会場の様子を同社の22.2chイマーシブマイクで集音し、ELLシステムで大阪会場までリアルタイム伝送を行い、臨場感の高い音場を再現することに成功したと発表した。

今回、さっぽろ雪まつり会場では、22.2chイマーシブマイク、8K対応のELL8Kエンコーダー／デコーダー、4K／2K対応のエンコーダー／デコーダーで高臨場感音響伝送が可能なELL Lite（試作機）が実験に使用された。

大阪会場では、ELL8Kデコーダー／エンコーダー、ELL Lite、22.2ch対応イス型スピーカーを用い、さっぽろ雪まつり会場の映像と共に高臨場感のある音で、現場の様子を届けた。

開発中のELL Liteは、4K／2K対応の極超低遅延エンコーダー／デコーダーで、PCMの非圧縮音声を最大64chで多チャンネル伝送が可能。ネットワークオーディオプロトコルのDante、MADIのデジタルオーディオインターフェースを実装している。ホール間のリモート同時セッションやライブ中継など、さまざまな用途に対応する。今回、ELL Liteによる非圧縮音声伝送が可能となった。

同社は、昨年のInter BEEでリモート・ライブ・セッションを行い、20ミリ秒以下の伝送を実現したという。